

第2回JE-HydroNetシンポジウム
「ナイルデルタの統合水資源管理の高度化に向けた
JE-HydroNetの構築」を開催

The Second JE-HydroNet (Japan Egypt Hydro Network) Symposium
on the Nile River System and the Delta of Egypt



2012年3月20-21日に、エジプト・カイロにおいて、標記シンポジウムが104名（日本側14名、エジプト側88名、その他2名）の参加者を得て開催されました。

エジプト・ナイル川流域は、人口増加に伴う水資源不足が国家的課題であるとともに、アスワンハイダムや上流諸国の開発行為がナイル川の水量・土砂動態・生態系・沿岸デルタの地下水塩水化などに顕著な影響を及ぼしており、さらに地球温暖化による降水量変化や海面上昇などの影響を適切に評価した上で、統合的流域管理による解決策の検討が急務です。

現在、京都大学防災研究所では、水資源環境研究センターを中心に、GCOE-ARS（極端気象と適応社会の生存科学）の取り組みの一環として、エジプト・カウンターパート機関（アシュート大学、アレクサンドリア大学、水資源・灌漑省水資源研究所（NWRC））と学術交流を深め、乾燥流域管理のプロトタイプモデルを共同開発するための研究アライアンス（JE-HYDRO NET）の構築を行っています。今回のシンポジウムでは、第1回シンポジウム（2010年11月京都大学で開催）に続いて、下記のテーマについて、日本・エジプト双方からの発表（キーノート5編、一般発表23編）と討議を行いました。シンポジウムには、上記3機関に加えて、会議会場の提供を受けたカイロドイツ大学（GUC）、カイロ大学、エジプト・日本科学技術大学（EJUST）からも参加を得ました。

- 1) ワジ（涸れ）川流域における鉄砲洪水と流出モデリング
- 2) 水資源管理と気候変動影響
- 3) アスワンハイダム堆砂問題とダム下流生態系管理
- 4) 地下水管理と塩水侵入問題
- 5) ナイル川流域のダム影響とダム管理

エジプト国内では、分野横断、組織横断による意見交換の場は極めて少なく、本シンポジウムの開催により、エジプト側関係者間の情報交換、意見交換が促進されたこと、また、本シンポジウムでは、各組織の学生および若手研究者の参加を促すために、ポスターセッション（約80編発表）を開催し6編の優秀発表をポスター賞として表彰し、彼らの研究意欲を高めたことは大きな成果と考えられます。今後は、6つのサブグループ（ワジ川鉄砲洪水対策、アスワンハイダムの堆砂対策、統合水資源管理と気候変動影響、沿岸域管理と気候変動影響、地下水管理、河川および沿岸域の生態系管理）を構成し、グループ間の連携を図りながら協力を進めていく予定です。

